



新撰

掌中俳諧

草

加藤香舟所輯

全

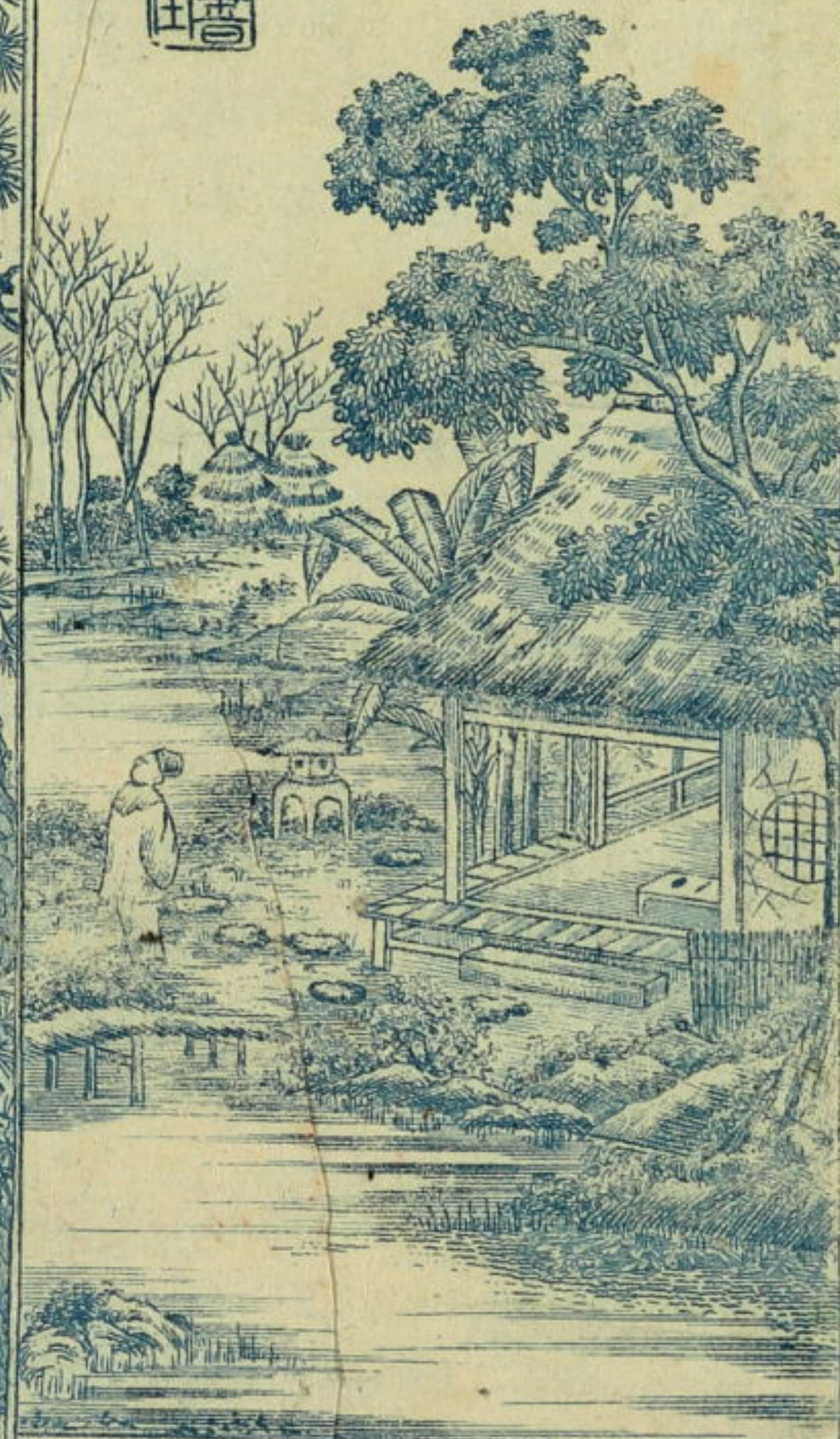


大垣園東岡宗匠輯
北明舎貞彦考正

新撰 掌中俳諧教草

首 俳諧秘訣集
湖俳諧五百題

松田文書堂藏



序

世不教へまゝとるまゝハふし 秘傳何竹の尾を 俳諧をいへ
よるれ 一よりけし尾の巻 一と今控極まり 一あまをうりし
よりをく 戒うけて 仇抄にあまふと 筆久し 一あまを
又書堂のまゝ書あま 一は一冊書れり 名つけ 一仇
抄を 一元妙 一とハせしを あまのまゝとありと 一まの 知れ人



の指笑を命と見さるゝとえよりこゝろを侘士と見らるゝと云
 海集を新編との事ありて只初巻の字彙よりなり
 誘引せん為に老婦人等彼等重小甘酒趣ちよ
 之る儀不ひじかゝむとりのべ

侘祥翁

東園求雨園

新撰 侘沙を 一冊 目録

○一月の部	○七月の部	○芭蕉翁口訣
○二月の部	○八月の部	○同本情引句
○三月の部	○九月の部	○新宅(まほ)句作
○四月の部	○十月の部	○七姫の祕傳
○五月の部	○十一月の部	○公翁五体発句の傳
○六月の部	○十二月の部	○発句切字の夏

○同かーくぎき

目録

○ 附合の 支	○ 聯勺心得の 支	○ 名不 <small>名不</small> を附 <small>附</small> の 支
○ 勺数去嫌の 支	○ 二季ふこころの 支	○ 四季を <small>持</small> りの 支
○ 案 方	○ 月の定坐の 支	○ 照 <small>照</small> の 支
○ 附 方	○ ことば丸月の 支	○ 宵三の 支
○ 聯勺去嫌の 支	○ 花の定坐の 支	○ 小留の 支

○ 他季うつりの 支	○ 后患の 支	○ 新撰五百題
○ 三ツ拍の 解	○ 附合三儀	○ 春の 部
○ たそこ分豆の 説	○ 附合四道	○ 夏 <small>夏</small> の 部
○ 患上中下	○ 執中法の 支	○ 秋 <small>秋</small> の 部
○ 初患の 支	○ 附勺小季を結ぶる	○ 冬 <small>冬</small> の 部
○ 中患の 支	○ 月花の 支	

俚俗を(竹目録終

首書 俗抄秘決集
同新撰 俗抄五百題

附合のり

発句とハ 一層の老翁が秋の初発の上句を五秋
をばけの季をむすび切字を入れていふも
おれらふ句をつくるに四季の初切字の入
りやとありぬれはむすまふ発句敷そを記
したり考考すべし
下の句も発句と同し季をむすび発句の玄
きよく受て又もあふすべし 但し時候
違速といふ事あり速速とハおそしめし
といふことありぬれハ三月の発句ハ二月の季
あてハつらぬ二月の発句ハ三月の季もあてし
二月ハ二月の季三月ハ三月の季あてつけれ

扱とハ

第三とハ

上句の季もて照くしつらぬも一句の
たけさく発句の作あふさるやうに三月
みころる季もてすべし
三月あつくる季とハ立去のせらより四月
の節も通ふ季あり四季の初切字の初めか
のことく星を付あふハ三月もさる季あり
四季とも同し
あつハつらぬもてるよ
但し標のてりあるときハふとあらんとの
かあ。いともあふ外ハあつた
こしのでとハ標の七文字もあふとあつた
三てとめハあつたあつとあつた
雑の句あり雑とハ季のあつたあつた
月の定度あり月の句をすべし月ハ秋あり

新撰 寄撰 年中俗抄

鴻氣文庫

大垣園東岡宗匠編輯
北明舎貞彦手塚考正

端月	睦月	祝月	初月	太月
開端	改且	聖節	上日	節且
季冬	南年	歳首	肇年	改年
大呂律	小寒節	大寒	殷正	抄冬
臘月	歳始	肇始	肇年	改年
更始	年始	復初	新心	履端
改且	案初	聖節	上日	節且

元日	元朔	元旦	三始	元三	三始
新年	今年	初玉	初日	初空	初物
初焉	年既	年礼	初日	初空	初物
四方拜	初拜	初拜	初拜	初拜	初拜
新年宴會	新年宴會	新年宴會	新年宴會	新年宴會	新年宴會
屠蘇	屠蘇	屠蘇	屠蘇	屠蘇	屠蘇
雑煮	雑煮	雑煮	雑煮	雑煮	雑煮



六句め、
秋もれまを初表といひ内神祇釈教
並多々述懐木の句をせし
是より初よりといふ裏角といふ
は次神祇釈教並多々述懐木何あても
すべし

あけ句と
拂とも是袖といふ句仙百穀木の終りの
句あり是の句ありはあけ句も是あり神
祇の句ありは神祇ありべし後ハこれ
あり

句数月の定度未末子委一ありは但一か仙の
是をまふちをせしといひい知るべし
一折
表六句
五句日月の定度六句日月とばさば

裏十二句
七句日月十一句目月の定度十二句目月の定度
名残面十句 十一句目月

裏六句
五句目月の定度是を句ひの花といふ
右二折合せて三十六句あり 古式ハ二を三月ありた
せせは二五々条ありて二を二月を月ありた
ハ表の折さハ秋をせして裏より二月を出た
ありあり一三三三を月ありたハ二を三月もあら
べし

○句数去臘のり
三句より五句までつく二句をハ於て五
句まで一
二句つきて三句まで一一句ありて
るもくち一かつた
二句より多くせし三句まで一一句あり



羊柳 年徳神 吉方相 押年魚 数の子 子一者
掛鯛 祇道削掛 今八坂神社と改る四元
門松 松さう 松さう 注連つぎ 稲三つ
搦 裏白 穂長 産電 大服
菱餅 芳餅 大篋 歯固 以降
蓬菜 穂 結らん布 串かき 海老揚子
元始糸 一月三日まうくありあり
と一男 ひと ひと ひと 松の内



古志 祝 祝 祝
いねつく 一日のひ
きそ初 正月一日の
書始 若すあてしめ
万葉 大黒糸
破魔子 老まや
氷の様 旧曆の元日ハ氷をたふるは秋のあけつきは冬を
煙栖油 大和必考の土民年終り中少てあけつき
あけつき 正月一日の
あけつき 正月一日の



釈教

驚

速懐

居

人倫

山

生

天

風

極

食

衣

登

夜

時

降

天

風

天

二句より多くせだ三句去べし一句を

すてくろくかたは

一句をハ控へて三句もつく五句去べし

一句を控へて三句去べし

同の

二句もつく五句去べし兼用とハ

りて三句去るあり

二句三句つく二句去べし句よりて

三句去あり

二句つきてもよ三句去べし兼用と

つりて二句をゆり

同の

二句もつく五句去あり大よとつり

て三句をゆり

二句もつく五句去あり大よ亦大

わとつりてハ三句あり

五句去べし食も飽とのかつて三

句去べし

五句去あり兼用とつりハ三句あり

ゆり

五句去べし三句みてもゆり

二句つくもくろくかたは三句去べし

句を控へて三句去べし

一句を控へて三句去べし

一句を控へて三句去べし

一句を控へて三句去べし

一句を控へて三句去べし

一句を控へて三句去べし

一句を控へて三句去べし

一句を控へて三句去べし

一句を控へて三句去べし

一句を控へて三句去べし

一句を控へて三句去べし

一句を控へて三句去べし



十日

六日年越

初芝布

福

初子の日

今ハ祭

寶引 後引 手鞠つく 羽子板

花開 初高 店卸 小肥

幸筈 音木 福寿茶 三ヶ日 後閑

七種 せり あんか 西京

初芝布 二のつりといふ日あり

福 七種のあはれを

初子の日 小振引 四日月の子の日

今ハ祭 初子の日 小振引 四日月の子の日

今ハ祭 初子の日 小振引 四日月の子の日



五尺三寸

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた 初卯の日 十日夷

あつた 初卯の日 十日夷

あつた 初卯の日 十日夷

あつた 初卯の日 十日夷

あつた 初卯の日 十日夷

あつた 初卯の日 十日夷

あつた 初卯の日 十日夷

あつた 初卯の日 十日夷

あつた 初卯の日 十日夷

あつた 初卯の日 十日夷

あつた 初卯の日 十日夷

あつた 初卯の日 十日夷

あつた 初卯の日 十日夷

あつた 初卯の日 十日夷

あつた 初卯の日 十日夷

あつた 初卯の日 十日夷

あつた 初卯の日 十日夷

あつた 初卯の日 十日夷

あつた 初卯の日 十日夷

あつた 初卯の日 十日夷

あつた 初卯の日 十日夷



初卯の日

初卯の日

初卯の日

初卯の日

初卯の日

初卯の日

初卯の日

初卯の日

初卯の日

初卯の日

初卯の日

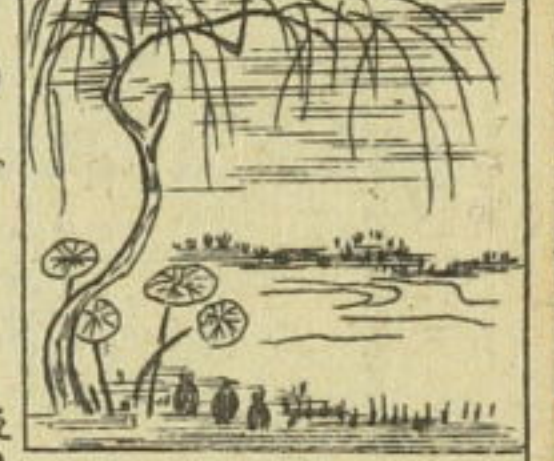
初卯の日

初卯の日

初卯の日

夏と夏 五句去 二句より 三句まで 平白でハ一
 句より 持てるも 蕉風子 三句まで 例あり
 冬と冬 五句同
 神祇と神祇 三句去 二句もつくも 細の巻 振も 神
 祇を 振も 振も
 釈教と釈教 神祇ふああり
 神祇と神祇 三句つゝさくもはし 寺越る能
 神祇と神祇 通教 指 祈 杖 太鼓
 神祇と釈教 三句去 二句もつく 悼の巻 遊善の巻 振も
 三句去 二句より 五句まで つく 悼の巻 遊善の巻
 の外 神祇と釈教と 善なるの 教を 越るも ふさぐりあり
 ありと 三句去 二句より 五句まで つく 悼の巻 遊善の巻

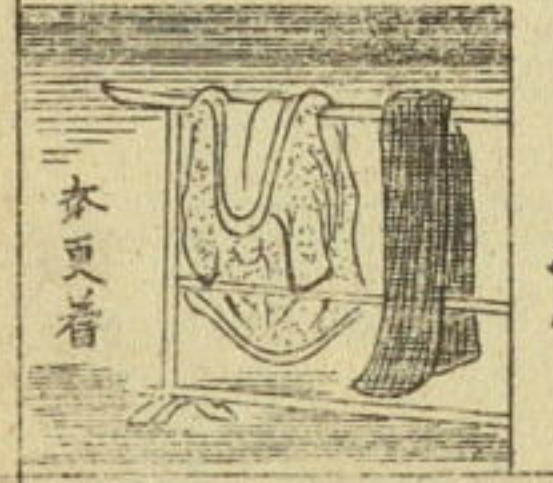
ものあれ 光 三句より 持てる
 速懐と速懐 三句去 二句もつく
 懐旧と懐旧 三句去 二句もつく
 速懐と懐旧 附句より 寺越る能 牛のひあり
 名取と名取 二句去 二句もつく ありと ありあり
 極和と極和 去きふひの 福 仙の二句 ありあり
 生れと生れ 三句去 二句もつく ありあり 二句去 あり
 食飲と食飲 二句去 二句もつく ありあり
 山歌と山歌 三句去 二句もつく 一 ありあり 振 希
 温泉の山歌 山さち 柳 木 熊 ありあり 教 怪 きのもの ありあり
 水辺と水辺 三句去 二句もつく ありあり 井 田 水 ありあり
 笠 海士 釣 柳 冥 温泉 ありあり 怪 きのもの 二句去 ありあり
 冥 温泉 ありあり 怪 きのもの 二句去 ありあり



柳の葉 玉の葉 防風 菅茶 茶子の葉
 土草 獨活 聖老
 于菟 那大根 芥 児花
 蓮の根 葱姑 葱姑 児花
 柳の葉 玉の葉 防風 菅茶 茶子の葉
 土草 獨活 聖老
 于菟 那大根 芥 児花
 蓮の根 葱姑 葱姑 児花

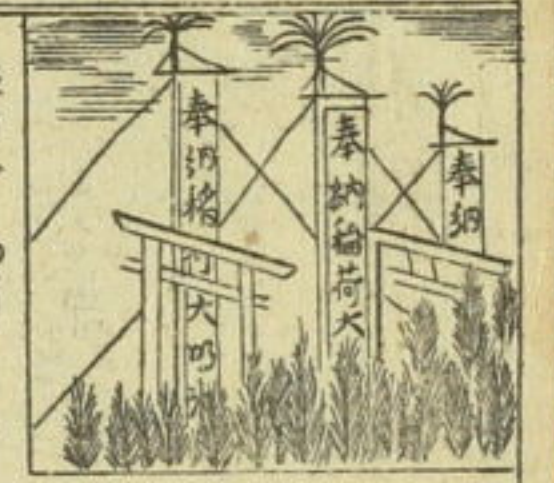


木の芽 木の芽 茶の芽 若布 海苔 水松 日永
 佐保姫 初天神 三月 夾袴 陽中 花朝
 佐保姫 初天神 三月 夾袴 陽中 花朝
 佐保姫 初天神 三月 夾袴 陽中 花朝



居不と不不 三句去二句もつく 伴 新垣 庭
井 竹 草 葉 窓 北戸あぶの敷うらさも
ハ二句去あり
障物と障物 二句去一句を控じしるを 雲
雨と雨 二句去一句を控じしるを 雲
さめとさめして七句去 五月の 晴る 白くあて勢
て五句去あり
律和と律和 二句去一句を控じし 但雲 勢
霞 煙 霜 陽春 多遊のりあり
天象あひとしさも二句去一句を控じし 但
空 中を 虹 七夕の虫あぶの敷あり 天象と八日
月星の三光をいふあり
晴分と晴分 二句去二句もつく 但 且暮朝夜

霄あぶのりあり
風作と風作 二句去一句を控じし 伴 輔 帆
雲 霧 扇 唐箕 毛ふいふを風作あり
ま作とま作 二句去一句を控じし 但 訪 分 連
説のつるま作あり
病作と病作 二句去一句を控じし 但
夜分と夜分 二句去二句もつく 伴 氣 帆 遠大
妹がり 困 眠のつる さぬく 暁あぶの敷うらさもハ
二句去あり
菖蒲と菖蒲 二句去一句を控じし
人倫と人倫 琴 碁 書 画 仇 何みても二句去
二句もつく
人倫人情のさびき 終心は有人情ハ何句みてもつく
んゆへー 他門ハ人倫人倫ふあぶの敷あれども自他



梅見月 出雲祭一日 吉野の餅配日
初午 仍基系 遺教經
柱炬火 十五日
廣田祭 十六日 宇佐祭
二月堂の祈 十五日まで祈ひの日炬火をともす有
釈生子 一日支那おてするを後五
廣田祭 十六日 宇佐祭
廿七の節 旧七日より十四日迄本宮良奥福寺南大門あまの土上を祈り小焼
門あまの土上を祈り乗徒立ちあがり又お祈りするを祈りしり用を
年長は四月の役若二階へお祈りしつと祈りし南大門向子たかき
かり縁へお祈りするを祈りしつと祈りし南大門向子たかき
祈りしつと祈りし南大門向子たかき
祈りしつと祈りし南大門向子たかき



初雷 焼野 義の焼系 虎杖
水葱指 花ハ交 蕨 物脊
十六日琵琶法師をこれに依り光孝天皇の自女の忌日あり
はつ宮ふらぶの友定よりておんを御祈りし
初雷 焼野 義の焼系 虎杖
水葱指 花ハ交 蕨 物脊



張子の新生... 牛士 術士
生れ小婦... 穉少ホむも二句去

出代 穀入 彼家 山入 穀子孔子知り
○二季子... 裕 百己余 去秋之季... 短句 百己余... 短句 百己余... 短句 百己余...

おらう後名 二句去... 天狗... 短句 百己余... 短句 百己余... 短句 百己余... 短句 百己余... 短句 百己余...



蓬もち

大和祭 大和 一日 松尾祭 山一 二日 平野祭 同日
神武天皇祭 三日 梅家祭 大和 三日 上巳 同日
批且 音三 大裏ひか 批酒 音もち
曲水宴 三日 巴の川の川上より酒を... 己日の後 上の己の日川 迎ふて夜神
天三 廣津祭 四日 於田祭 同上 大神祭 山一 九日
稲荷祭 九日 宇治法華會 十日 日吉祭



壬生

播磨祭 旧十五日 人丸祭 十八日 山身拭 十九日... 壬生祭 十四日... 加茂祭 十五日... 念佛 十五日... 雄女侍 旧廿一日



是より取あり 突自取のときハハ三み みて取
を帰ふ 取といみて 徹すしひききあふゆあり

○ふるのし

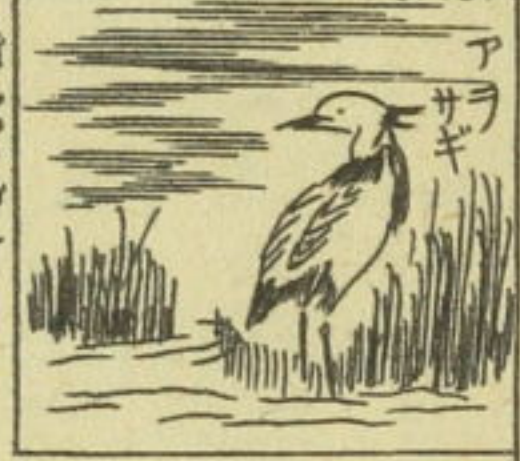
さるる 物取をたふしたる 月影なり 野
午時の色を照らす 物の影なり
是より取あり 突自取のときハハ三み みて取
を帰ふ 取といみて 徹すしひききあふゆあり

月影をたふしたる 月影なり 野
物の影なり 物の影なり
是より取あり 突自取のときハハ三み みて取
を帰ふ 取といみて 徹すしひききあふゆあり

何 是のことばをよみあへり
あり 夕夜深きとて 海にん 夕
さるる 夕夜深きとて 海にん 夕

夕夜深きとて 海にん 夕
さるる 夕夜深きとて 海にん 夕

先五女お後名の三あり 又五女お後名の三ハハハハハ
上下の五女お後名の三あり 又五女お後名の三ハハハハハ



菅宮祭 中午 虎杖くまへ 山形祭 中申

大塔舎 大坂 天正 三じり取 あり

花竹 廿二日 衣を穿たぬの 衣を穿たぬの

子規 山崎 杜若 杜若 杜若

梅鶴 梅鶴 梅鶴

故き火 故き火 故き火

蚊 蚊 蚊

蚊 蚊 蚊



蚕の蝶 蚕の蝶 蚕の蝶

鹿の袋角 鹿の袋角 鹿の袋角

初鰯 初鰯 初鰯

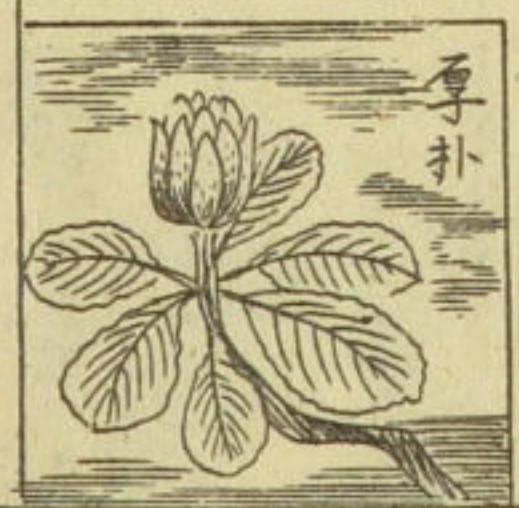
解将 解将 解将

管附子 管附子 管附子

魚子 魚子 魚子

柿の葉 柿の葉 柿の葉

柿の葉 柿の葉 柿の葉



芭蕉 芭蕉 芭蕉

牡丹 牡丹 牡丹

芍薬 芍薬 芍薬

芍薬 芍薬 芍薬

芍薬 芍薬 芍薬

芍薬 芍薬 芍薬

芍薬 芍薬 芍薬

芍薬 芍薬 芍薬

芍薬 芍薬 芍薬

芍薬 芍薬 芍薬

時多 机 簞 ありていふをいさるふあをいさるべし
 初めよりいさるふあをいさるふあをいさるべし
 のあさまりをいさるふあをいさるべし

○他季うりりのり

史邦 史邦
 去未 去未
 九死 九死
 洗足と客ふあをつくやうに
 街彼あふふあをいさるふあをいさるべし
 月の色水もいさるふあをいさるべし

相國ち牡丹の花のさうりて
 挽の蓋とていさるふあをいさるべし
 新八月のうらなひのうらなひをいさるふあをいさるべし
 一あ二あをいさるふあをいさるべし

○三物の解

○三物の解
 三物の解
 三物の解
 三物の解
 三物の解




石ころ 石ころ
 白丁花 白丁花
 岩梨の花 岩梨の花
 風車 風車
 豆種 豆種
 初茄子 初茄子
 烏帽子魚 烏帽子魚



六月 六月
 菘菜 菘菜
 芒種 芒種
 夏至 夏至
 仲夏 仲夏
 盛夏 盛夏


ふせぬ三句の懐ゆるやうふまをよと尻四句目ハ
 台の地あるも百支分仙の旗ものあれバ節の持と
 遠くを愛ふおひあつ節の起定指とハ
 薄暮層雲垂遠腰 傾盆一雨定明朝
 老翁八十眉如雪 立板溪邊獨木橋
 は日の心ハ夕昔を立あふびたる如くの便をよの
 めぐる風情ありよりておもを傾けるはよりの目かぬ
 羽障ふと之は奈句と綴の一情あり有る三六は山の
 日初にせを又えとる八十の節ありわくのぬく登り
 節の情を情して節情二句つりハ人おあり人情
 二句未ハハ風系時節時分あふ一情にありあり古
 人の三節ふくまふ



丹生川上祭一日 大船祭同日 舟屋祭同日
 神宮月次祭同日 都布帛祭遺 菅且同日
 端午 幟 菅蒲うち 菅蒲うちと 日人形
 ちまき ちまき
 茶日 五日

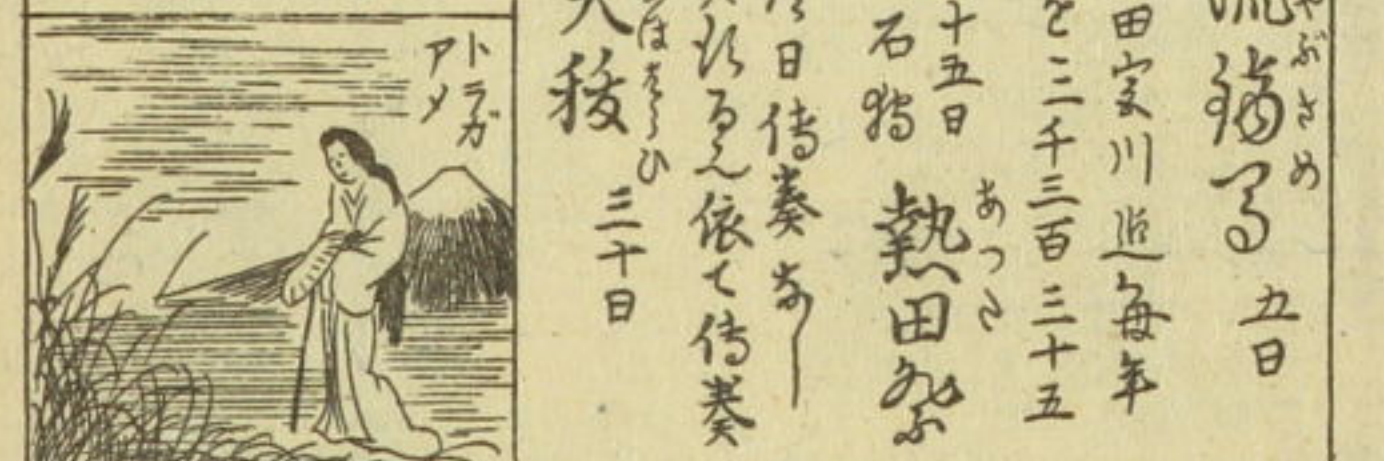
丹生川上祭 一日
 大船祭 同日
 舟屋祭 同日
 神宮月次祭 同日
 都布帛祭遺 同日
 菅且 同日
 端午 菅蒲うち 菅蒲うちと 日人形
 幟 ちまき
 茶日 五日

梅香 梅香 梅香 梅香
 あつめり 梅香 梅香
 市の中ハおの自ひ衣まの月
 ありしひと門へのま
 二上人のたも思ひは初日式
 梅香 梅香 梅香 梅香
 梅香 梅香 梅香 梅香



鳧車 五日
 市地打 五日
 伊勢山川祭 五日
 折田祭 五日
 住吉川田植 八日
 山田田植 八日
 大枝 三十日
 住吉川田植 八日
 山田田植 八日
 大枝 三十日

丹生川上祭 一日
 大船祭 同日
 舟屋祭 同日
 神宮月次祭 同日
 都布帛祭遺 同日
 菅且 同日
 端午 菅蒲うち 菅蒲うちと 日人形
 幟 ちまき
 茶日 五日



何某候の使者の冒の掃除の上小あきさううろ

派のうあ具のまけたもと分

尾さへハ陽羨公備子丸づきん

作庭まはりの尾云つき尾切禿やうの若のさかたる
たもとをのゆき情あり

修打しめり大たむと

舞うけてね基中向小中今分

屋一とさうの在眼ふゆこれとともさうまひ
さきあり

換りたごけの掃たむとを

草くへてさあ障がれぬゆわけ

余るはもの候さけあはあさうへ仕舞たる
ゆああ

修りたごけの塗たむとを

麦秋のうちハ陽のあけ

同くはさうたけあぐ塗たむとを

候あさうて回今さあぐの麦秋たもあるさきう
いたまこゆん耳小中あハ只一をあぐ目あはる

あハ一ツくふうて付白もそれふあさう

○懸上中下のり

○懸まるとあぐ候とあぐ一情あがわあも
産ああぬ産をてあぐ産あぐ産ささ

あり候の付白とも上中下中後あさう

あさう

上あ

来へきを角とく夕懸の候

うしろの産の探産あさう

上高の人付あさ文化産あり我せとがまへさ



友葉

茗茶

藜 天南星

椒性

玉簪

策陽

芥

了齒

天蓼 赤

竹々

刈葱

和布を刈る 解

豆

硬豆引

茄子 子松たけ

梅の産

永夏

亢陽

瓜期 且月

七月

林蔭

小暑

大暑

季夏

暄月

陽水

水無月

實無月

風待月

鳴神月

建勳

水餅

六月會

祇園

安房

倭川

鞍子

竹切



ありさくわりの物のあまひうねてまゝもどね
 近のちあしのがさめすたゝたのちのちの風情も
 あいんう

中不

以ハ出日の柳くれ
 喱かりふ来るふふをもちあふ

川津の風情ありけみの返りうりあも姉め申あ
 ど不さやきたる年波のあふさあふんりうり
 中あまことありて中あの思とりえんう

下不

田入小色の白き雇人
 飛鳥はよあきたる思と誓ふ思と

あへんごまき麻の糸思ひ合せてよるさかり
 まつさ吹の鄙よりあをを衣ほりやめあ女の

雇人見んん宛せふるてああぬ日ハ内を思ふ
 りる付もはあ〜りり

○初思

押やふれてもてあぬ初思
 ち子のもやも思のさ〜(名)

とつるの林よけあふふあふあめたるあじあき
 思あり中〜初思女もさ〜めきたる思ほの
 へまされと附〜)

父母愛少女 女是聰明子
 生不識鴛鴦 繡出鴛鴦是

是のの條情う

○中思

裂て捨るがけ起情あり
 若系をとらふの髪不梳並し



千日詣 旧廿四日 播立祭 旧廿五日 唐崎祭 旧三十日 住吉川 祭
 加茂の冬月詣 旧廿九日 結火祭 旧三十日 大蔵祭 旧三十日 夜神祭
 大蔵祭 旧三十日 雷の陣 旧三十日 夕立
 八日 中不
 雨の涼 座敷涼
 風情あり



砂糖水 音の さいし井 雷 松屋
 土用子 揚梅の羹 林檎 早柳
 李 杏 桃 梅子の茶
 十八日 中不
 雨の涼 座敷涼
 風情あり



さよふめ精麗のあはるきよなるものの中袖
の衣をいんとそめたるを合んで中の衣を云んる
○後 患

枕のあを解てあきさむ
爰結と幽契ひとりありしこ

揚子堀くつて唐帝のおもひを去て漢皇
の衣をいとありしる月の徒抱ありはうの反魂の草
うもあふまほしきや狩鳥の涙情けらげあををし
くし依てそを捨棄の中より抜 けこれをも
よふと云まほしくさあり
ある せふいあふらうたる患をして
附 浮世のそとへいさふ町あり
人のよく襟のふし袖極ごとくさまくふあひあり
ぬる患ふふの果のあはさばさきをいふめたる付て

あひ せふいあふらうたる患をして
付 けはつる合を侍をり
あひ 史そとそよ 被の如陵類
付 眼透くくする患もせり
あひ 我ものおもひをさ一人
付 以患をえんとやれバ吃せ
あひ 泣て仕舞ふこ跡をばれけ
付 下程の結ゆめえりさすれれ
あひ 我本不あらねと娘泣く
付 患ふ心ふげとひの友をさ
あひ ちめ使の如さすをまひ
付 かくし腹思あうとあもほま
あひ 口紅おまごさ石仙のうけ
付 唾の患細とて世あけ



文志 撥のと
鼓子 盆陀系
荒和布 凌宵
管州 荳州
竹の皮 脱
日傘 帷子
川骨 漆皮
千日紅 着の玉
陸系 樊唱系
虎尾 孫の玉
海松 着の玉



洗後 洗裡
骨にも料理 習油 油月
竹敷人 篋枕
石系糸 旧六月廿八日ある大山あがり葉の石系糸
大だげん糸糸行の人本太刀を脚る



あひ 傾博とのきりあひあひ
 付 庖癩神のくま整抗もの好
 付 志とやう小柄葉座の古狐
 封もやう師並りあ

○ 寄合 ありお對して趣向を定むる
 ○ 句作 ありお對して新古虚实の
 ○ ておと ありお對して技おの
 ○ 附合四尾
 ○ 随 ありお對して八拍子等の一掃あり
 ○ 放 ありお對して風を暖たり 御まとい
 ○ 逆 ありお對して風を暖たり 御まとい
 執中法のり

○ 芭蕉のあひ五り葉の内附句小執中 三葉のの法あり
 執中とハ中をとるといふらん 葉方軒要と云 係氏もの
 くくろあじの大羽あるも 後テの左近より 葉をた
 てて 後はハ枝葉ありとを 浮遊程の五拍子ももま
 三拍めのあも ちきおを 作して 拍ハ葉ありの
 附句も危のどと ありお對して 附へるものハ一字三
 おハすぎ 拍を 弁さる 拍ハ白く 趣向を求る
 り ありお對して 執中の法を用ひし 一お二字
 ありお對して 加へるものハ 拍ハ白く 二拍子
 ることハ 附句ハ 葉を 知して 中ハ葉を 行が
 ごとく 情の通ひなるを 上と 下と ねと ねと あり
 このらんや
 ありお對して 拍ハ白く 肉桂
 ありお對して 拍ハ白く 肉桂
 ありお對して 拍ハ白く 肉桂



八月 立秋 白露 寒露 霜降 立冬 小雪 大雪 冬至 小寒 大寒
 相秋 素秋 初秋 首秋 上秋
 特秋 早秋 暮秋 霜月 桐月



女部正月 涼月 文月 文ひるげ月
 氷川祭 一日 少燈祭 四日 大智祭 十三日 男山祭 十五日
 麻呂祭 廿一日 名和祭 廿二日 三島祭 廿五日 藤島祭 廿六日
 七夕 早祭 牽牛 牽牛 牽牛 牽牛 牽牛 牽牛 牽牛 牽牛 牽牛 牽牛
 双洗 机洗 天の川 報河 浪浪 天河 早合
 鶴の橋 紅葉橋 書迎船
 乞巧奠 乞巧汁



付老の

一

付

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

附

子孫を授け人の名を問

は秋も門の仮むりらり

救をふもれをひとり

鳴子あしとく片秋の

盗人ふつれそふ書の

附月小季をむすぶ

○附句のまうりり秋うり

り葉ゆるふよつてお句

かいて附八側の執中

ハ季を立しうちをま

牛草の白 鬼のやう

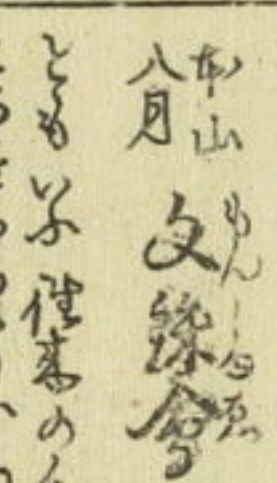
焼飯のむもすうら



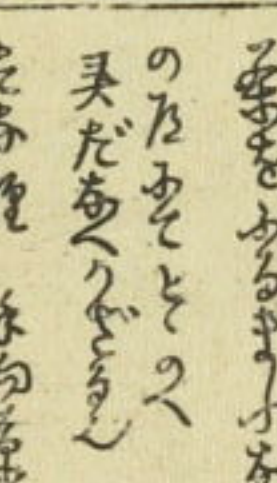
七種の船 七箇の池 七箇の池



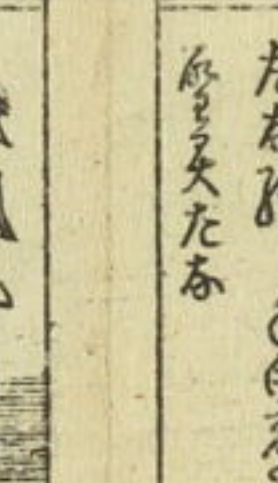
池の坊七女の立系



文線舎 六月集



迎火 魚市 中元



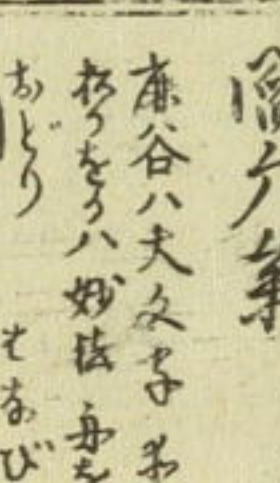
燈籠 友書納



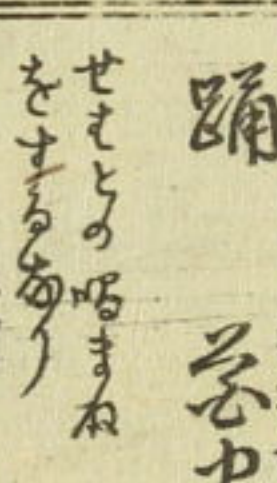
経本流 鼓目踊



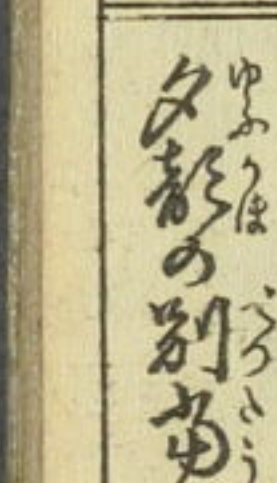
魚のつと入 新舞の奏



お撲



秋津虫



夕影の別物



踊



お撲



お撲



お撲



お撲



お撲



お撲

附八の月は花も三があらういん

富川ナヤ...

指書よりのきり...

附八一掃刺之...

下の德の...

刺控せり...

付八老ぬ...

指八の...

うちひ...

付八乳母...

〇月云の...

〇月をの...

てあくの...

と廿ヶ...

のとお...

く月を...

お白...

娘附...

用あり...

狂か...

脚...

付八日...

着る...

席上...

医考...

花の...

花の...

疾を...



イナゴ...

クヅ...

キノ...

ハシ...

ハシ...

ハシ...

ハシ...

ハシ...

ハシ...

ハシ...

ハシ...

ハシ...

ハシ...

ハシ...

ハシ...

ハシ...

ハシ...

ハシ...

ハシ...

ハシ...

ハシ...

ハシ...

ハシ...

ハシ...

ハシ...

ハシ...

ハシ...

ハシ...

ハシ...

ハシ...

ハシ...

ハシ...

ハシ...

ハシ...

ハシ...

ハシ...

ハシ...

ハシ...

ハシ...

ハシ...

ハシ...

ハシ...

ハシ...

ハシ...

ハシ...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

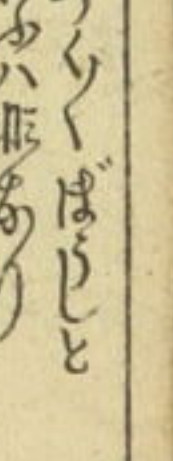
...

...

...

...

...



...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

枕もあつらひ響響あつらひ
浮海をまじりて月の夜
浮海八重のあつらひにして越白八舟道遠あり月とを
と八白化あり

附八山伏の仮枕ありて月八白化あり
月をほくくするほく見の
軒

おんあふあふぬ七夕の思
名月の芳あふせきき芋畠
お白七夕の思とあれはさい登の白よつて附八芋畠
して月八白化あり

お日 懐胎の百合小候くけつ
狼のきりて鳴る友の月
附八美人月八ありふひあり

せとくと勢をしるる石の上
酒で包食小成やすき月
附八を食月八ありふひあり

日八春さるる二月一日
物を不仔細の地のとれ物て
付八仔細の地ありてさ八ありふひあり
あ日 曲突焚付る書の尻りる
そのお夜月の鏡もそれあり

附八指首あり月八月髪籠きしてまきとくすき
ゆりり又月をの白八を白の仙老不功老不功あり
功老の人ありまき時八をまきありふひを出して附八
不骨をくせぬ三竹未末池物ありのさあ秋の三日月
あるを毛の難ありをすくお男麻とさぬの附八れさ
それ八麻不書と秋ありありさあはあさぬの麻は



やいよ 水引草 ありけ草

お撲草 蒼母草 糸巻草

狗尾草 子梅草 仙翁草

解夏草 祝香草 龍尾草 葉の花

茗荷草 菊金の草 草麻 葉の草

五味子 女印草 板桐 男へ

五白 甘師草 薔薇草 楓

垢豆 飽まめ 線瓜 葡萄 葉草



冷酒 蓮飯 燒束 名紙

九月 南呂 白名草 秋分

桂枝 桂月 壯月 竹葉

仲秋 仲高 仲終

燕去月



て一白を... 八雑あり... 秋分祭

石 二 松 乙 山 茶 琴 豊
豊 二 松 乙 山 茶 琴 豊

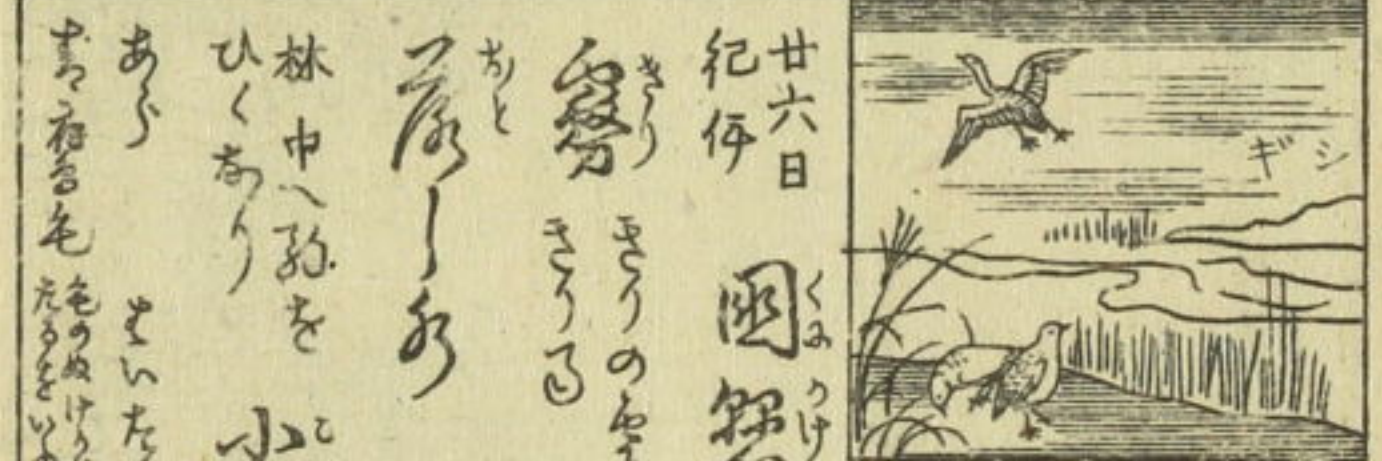


厚本月 秋風月 月見月 田安祝
生國魂祭 田面祝 田安祝 司古 田安祝

十月 塊天神祭 八幡祭 放生會
十六日 山姥石塔祭 死活杖の祭 秋祭



日 元日のゆき... 秋分祭
の妻 長年の八代... 秋分祭
初 長年... 秋分祭
四方 日子... 秋分祭
初 海... 秋分祭
初 年... 秋分祭
初 年... 秋分祭
初 年... 秋分祭



勅使を... 豊國祭 勢高祭
白雲祭 井伊谷祭
秋季皇霊祭 同神殿祭
西院祭 名月
暴風 初夜
後之彼岸 初夜



うろ 居 縁 絹 貴 初 々 梅 子

門板や花とればどつろつ同小
ありわれとたゆしや門のさうり
居縁あめる者やとつろつ同小
居縁のまじや忘れてはし居縁のま
梅の居縁もはく白ひけり
は梅の居縁もはく白ひけり
貴の居縁もはく白ひけり
初の居縁もはく白ひけり
梅子の居縁もはく白ひけり

洋々 仙 史 家 人 月 夜 林 田 連 舟 巨 船
鳥 雀 風 俗 性 結 結 結 結 結 結 結 結

梅 子 年 礼 女 の 海 苦 子

梅子を笑わく人も交りけり
梅子や梅子で梅子ゆき
梅子や梅子で梅子ゆき
梅子や梅子で梅子ゆき
梅子や梅子で梅子ゆき
梅子や梅子で梅子ゆき
梅子や梅子で梅子ゆき
梅子や梅子で梅子ゆき
梅子や梅子で梅子ゆき
梅子や梅子で梅子ゆき

鳥 雀 風 俗 性 結 結 結 結 結 結 結 結



鷹の居縁もはく白ひけり
鷹の居縁もはく白ひけり
鷹の居縁もはく白ひけり
鷹の居縁もはく白ひけり
鷹の居縁もはく白ひけり
鷹の居縁もはく白ひけり
鷹の居縁もはく白ひけり
鷹の居縁もはく白ひけり
鷹の居縁もはく白ひけり
鷹の居縁もはく白ひけり



八束梅の居縁もはく白ひけり
八束梅の居縁もはく白ひけり
八束梅の居縁もはく白ひけり
八束梅の居縁もはく白ひけり
八束梅の居縁もはく白ひけり
八束梅の居縁もはく白ひけり
八束梅の居縁もはく白ひけり
八束梅の居縁もはく白ひけり
八束梅の居縁もはく白ひけり
八束梅の居縁もはく白ひけり



風 羽子突て赤も浮雲(地)のそと
遠逝て尻尾とありぬ風のそと
空しくお指のあそびのしりしり
切てきりくちあそびのしりしり
愛しくハ喰積をなや陸路しり
喰つるは香のたきたたりし先
喉つるを人の鼻ぬ目もへししり
砂山ハ掃てなをそしりあそび
少る月お梅じし山のそしりあ
笑あてもいれしそを地 甲山
畑ハ色ふるあー 梅のそ
二階まで月のあそびうう梅のほろ
散る梅や梅の根をけ水ぬり
落る人のかくやああおの おき

鳥 可 獲 大 岳 西 附 山 月 一 年 雀
考 あ 陰 極 藤 谷 尾 居 鷄 遊

ひ 神書してうひひたりぬ白の下
夕啼やくひす庭お梅のやうに
鳴あがす桂とふあり 葉のそ
寝のそも沈むる殿やあく地
月えれバ水舞をくくあくくく
あそびあくとおハ梅しき田あは
あそびあくとおハ梅しき田あは
里ハ皆田アノふあふ元口うそ
あそびいろいおのえあふたひま
あそびいろいおのえあふたひま
あそびいろいおのえあふたひま
あそびいろいおのえあふたひま
あそびいろいおのえあふたひま
あそびいろいおのえあふたひま
あそびいろいおのえあふたひま
あそびいろいおのえあふたひま
あそびいろいおのえあふたひま

几 柳 小 氣 夢 士 卓 成 茶 墨 池
莖 臺 産 吟 法 池 乳 香 池



百約つら
曼陀羅華
番麦のそ
芋
琉球薯
瓜
烏爪

三七の花
白粉のそ
風仙のそ
梨

鬼のそ
おのそ
山露のそ



木賊り
菜種まき
かじ蔵
大根まき
牛蒡引
脾引
根引
栗引
牡丹の根分
焼印
十月 無村律 寧ろ 香露中

鬼灯

大豆引

大根まき

栗引



菜

十月

タヌキ

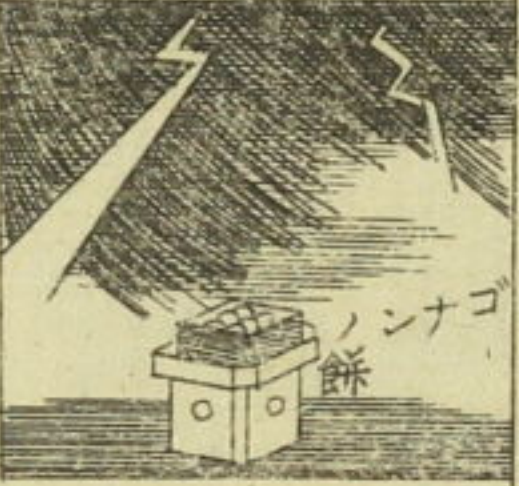
稚子 形 彼 英 月 撫

万の枝くまらばる 稚子くうち
耳たたく何きく 雑子そやと
山も形もみとも不叫て暗きく
層の形も登ハれとも気のつく
大くく不ありてまじし海るり
きりくと相音あししてくる
端よりのはえくろき 彼はくち
指ののつろひいふ事 彼はくち
細いしと度あつるある 彼はくち
妾の月さんや佐木の 袖たもと
逢うは子あしもありて英の月
そのまゝぬ内りへんて 英の月
あましくえあぬおを おぼろ月
舟輝るけむく不あて 英の月

芥白 旭山 楚石 為山 溪石 麓石 形白 岱山 茨山 芥山

袖影をもとて 床しやははる月
苗代也 秋あおの秋のま
よきるのけしめハ 溝一苗代四
苗代の秋のうらさき 極うさ
篠舞や奔坂をそ 袷怪き
袴のた 袖あきり 合聖反
襟相の袖も襟のひりりうさ
襟の葉やさハ 念んん 採ハ
葉のまじりの 親子見ゆる 出入
着て怖く 願ふ 案在ち
出代や 約走 区まきく の 苗
出代の子 執たむ 名とり 案
陰あたり 吉あくる ぬる 英の月

山多 民大 好省 為虚 護径 ぬ糸 芥山



季秋 盛秋 香秋 深秋 晚秋 杪秋
五陰 秋秋 紅梅 季高 末秋 涼秋
秋秋 玄月 粟月 陰月 玄月
紅葉月 小田刈月 本澤月 赤月 九月
不堪田の妻 目糧あて粗税を免し
泉涌も舍利舎 桂宮お撲
重陽宴 四定祭 山日 九月十日 九月十日 九月十日
九月十日 九月十日 九月十日 九月十日 九月十日



後の月 旧十三日 十三夜 任社の市 同外市 宝の市
日蓮の祭 旧十二日 天王寺一條会 旧十四日 石上祭 旧十五日
岩倉祭 旧十五日 一宮祭 旧十六日 小倉祭 旧十六日
神田の神祭 旧十六日 玉塚祭 旧十六日
度會新嘗祭 旧十六日 例幣使勅使を 立りあり



の百 葵 乙 下 暮

すくもふぬれらるる芥子の蒼
すくもふぬれらるる芥子の蒼
其の日のさう運きの大ふけ
其の日のさう運きの大ふけ
其の日のさう運きの大ふけ
其の日のさう運きの大ふけ
其の日のさう運きの大ふけ

長 翠 大 卓 藤 二 堯 完 長 卓 花 内 葉



伊勢の遷宮 旧十六日 十七日 廿二日 廿三日
波利祭 吳振祭
大森祭

秋 牧野を名乗る 名本
栗 木喰祭 天満宮流
津村祭 鳴瀬祭
尾越の鴨 紅葉

の百 葵 乙 下 暮

すくもふぬれらるる芥子の蒼
すくもふぬれらるる芥子の蒼
其の日のさう運きの大ふけ
其の日のさう運きの大ふけ
其の日のさう運きの大ふけ
其の日のさう運きの大ふけ
其の日のさう運きの大ふけ

長 翠 大 卓 藤 二 堯 完 長 卓 花 内 葉



仙遊 芭蕉破
柳 茶黄
河内鳥 密柱 金らん
柳 万年草



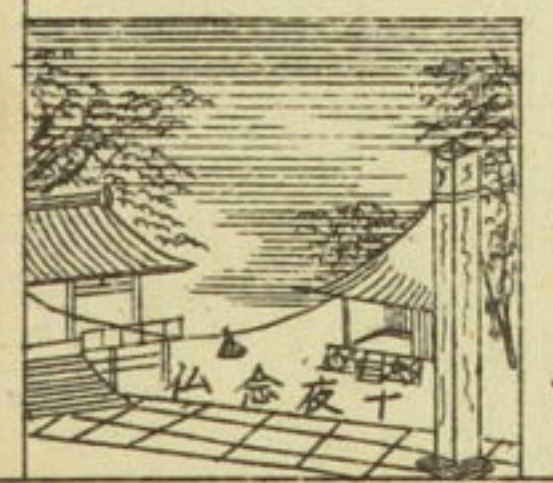
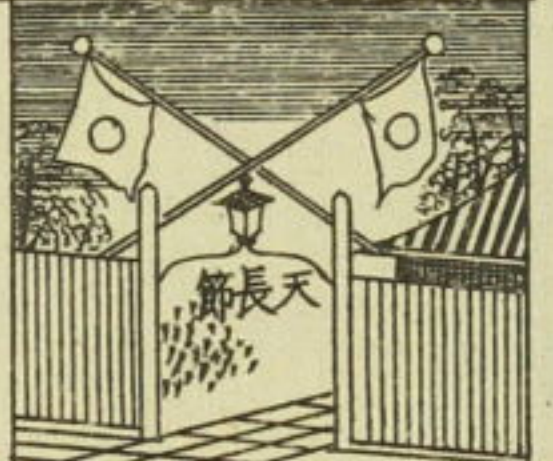
名を問うかきりあるはるまじき
 もとかきききききききききき
 解 押してをきききききき
 白と成り成り成り成り成り成り
 月代や移り成り成り成り成り成り
 其のて本其は成り成り成り成り成り
 能極見を成り成り成り成り成り成り
 灯として思ひ成り成り成り成り成り
 持成り成り成り成り成り成り成り
 氷き日や成り成り成り成り成り成り
 至つて成り成り成り成り成り成り成り
 至つて成り成り成り成り成り成り成り
 至つて成り成り成り成り成り成り成り

秋のころり 秋の別 秋のころり
 冬 顛頊 顛頊 玄冥 上天 律擅
 羽音 陽 南 守燈 三條
 十月 應隆 律 立冬 小雪 大雪 折木
 橋陽 初冬 秋分 早冬 立冬 上冬
 春分 虹 始氷 正陰 陽月
 小春 良月 冬陽の月 一づれ月
 初寒月 小六月 冬神月 秋分月



又成り成り成り成り成り成り成り
 塗本偶の乾く成り成り成り成り成り
 兄成り成り成り成り成り成り成り
 町中八日の成り成り成り成り成り成り
 約く成り成り成り成り成り成り成り
 ひやくし氷成り成り成り成り成り成り
 成り成り成り成り成り成り成り成り
 成り成り成り成り成り成り成り成り
 成り成り成り成り成り成り成り成り
 成り成り成り成り成り成り成り成り
 成り成り成り成り成り成り成り成り
 成り成り成り成り成り成り成り成り
 成り成り成り成り成り成り成り成り
 成り成り成り成り成り成り成り成り

神送 一日 神の娘 神の
 神集
 天長 三日あり 光仁天皇の御六年九月壬寅勅
 以十月十三日八景殿が生日之日不常 不感系重
 成り成り成り成り成り成り成り成り
 成り成り成り成り成り成り成り成り
 成り成り成り成り成り成り成り成り
 成り成り成り成り成り成り成り成り
 成り成り成り成り成り成り成り成り
 成り成り成り成り成り成り成り成り
 成り成り成り成り成り成り成り成り
 成り成り成り成り成り成り成り成り
 成り成り成り成り成り成り成り成り
 成り成り成り成り成り成り成り成り
 成り成り成り成り成り成り成り成り
 成り成り成り成り成り成り成り成り



怪 夜 百 日 紅 百 日 紅 百 日 紅 百 日 紅

怪あや川小流くる一ト在申
 百あや川小流くる一ト在申
 夜あや川小流くる一ト在申
 百あや川小流くる一ト在申
 日あや川小流くる一ト在申
 紅あや川小流くる一ト在申
 百あや川小流くる一ト在申
 日あや川小流くる一ト在申
 紅あや川小流くる一ト在申
 百あや川小流くる一ト在申
 日あや川小流くる一ト在申
 紅あや川小流くる一ト在申

若葉 早市 鳥的 松蔭 菜菔 百山 完末 万小 卓池 士債

子 帷 糸 枳 丹 牡 百 日 紅 百 日 紅 百 日 紅

子あや川小流くる一ト在申
 帷あや川小流くる一ト在申
 糸あや川小流くる一ト在申
 枳あや川小流くる一ト在申
 丹あや川小流くる一ト在申
 牡あや川小流くる一ト在申
 百あや川小流くる一ト在申
 日あや川小流くる一ト在申
 紅あや川小流くる一ト在申
 百あや川小流くる一ト在申
 日あや川小流くる一ト在申
 紅あや川小流くる一ト在申

一具 枳室 蓼本 士山 居山 松蔭 葦村 白柱 瓜名 四名 雙折



神立風 月冴 時雨
 神立風 月冴 時雨
 神立風 月冴 時雨
 神立風 月冴 時雨
 神立風 月冴 時雨
 神立風 月冴 時雨
 神立風 月冴 時雨
 神立風 月冴 時雨
 神立風 月冴 時雨
 神立風 月冴 時雨
 神立風 月冴 時雨
 神立風 月冴 時雨

埋火 巨燧切 懐燧 桐火桶 初氷 初雪 初霜 初雨 初風 初雷 初電 初霧 初雪 初雨 初風 初雷 初電 初霧

初氷 初雪 初霜 初雨 初風 初雷 初電 初霧
 初氷 初雪 初霜 初雨 初風 初雷 初電 初霧
 初氷 初雪 初霜 初雨 初風 初雷 初電 初霧
 初氷 初雪 初霜 初雨 初風 初雷 初電 初霧
 初氷 初雪 初霜 初雨 初風 初雷 初電 初霧
 初氷 初雪 初霜 初雨 初風 初雷 初電 初霧
 初氷 初雪 初霜 初雨 初風 初雷 初電 初霧
 初氷 初雪 初霜 初雨 初風 初雷 初電 初霧
 初氷 初雪 初霜 初雨 初風 初雷 初電 初霧
 初氷 初雪 初霜 初雨 初風 初雷 初電 初霧
 初氷 初雪 初霜 初雨 初風 初雷 初電 初霧
 初氷 初雪 初霜 初雨 初風 初雷 初電 初霧
 初氷 初雪 初霜 初雨 初風 初雷 初電 初霧



奥引 細代書 火俵 桐火桶 初氷 初雪 初霜 初雨 初風 初雷 初電 初霧
 奥引 細代書 火俵 桐火桶 初氷 初雪 初霜 初雨 初風 初雷 初電 初霧
 奥引 細代書 火俵 桐火桶 初氷 初雪 初霜 初雨 初風 初雷 初電 初霧
 奥引 細代書 火俵 桐火桶 初氷 初雪 初霜 初雨 初風 初雷 初電 初霧
 奥引 細代書 火俵 桐火桶 初氷 初雪 初霜 初雨 初風 初雷 初電 初霧
 奥引 細代書 火俵 桐火桶 初氷 初雪 初霜 初雨 初風 初雷 初電 初霧
 奥引 細代書 火俵 桐火桶 初氷 初雪 初霜 初雨 初風 初雷 初電 初霧
 奥引 細代書 火俵 桐火桶 初氷 初雪 初霜 初雨 初風 初雷 初電 初霧
 奥引 細代書 火俵 桐火桶 初氷 初雪 初霜 初雨 初風 初雷 初電 初霧
 奥引 細代書 火俵 桐火桶 初氷 初雪 初霜 初雨 初風 初雷 初電 初霧
 奥引 細代書 火俵 桐火桶 初氷 初雪 初霜 初雨 初風 初雷 初電 初霧
 奥引 細代書 火俵 桐火桶 初氷 初雪 初霜 初雨 初風 初雷 初電 初霧

鴨 冬牡丹 山菜 蕎麥 菜 瓜 冬牡丹 山菜 蕎麥 菜 瓜

冬牡丹 山菜 蕎麥 菜 瓜
 冬牡丹 山菜 蕎麥 菜 瓜
 冬牡丹 山菜 蕎麥 菜 瓜
 冬牡丹 山菜 蕎麥 菜 瓜
 冬牡丹 山菜 蕎麥 菜 瓜
 冬牡丹 山菜 蕎麥 菜 瓜
 冬牡丹 山菜 蕎麥 菜 瓜
 冬牡丹 山菜 蕎麥 菜 瓜
 冬牡丹 山菜 蕎麥 菜 瓜
 冬牡丹 山菜 蕎麥 菜 瓜
 冬牡丹 山菜 蕎麥 菜 瓜
 冬牡丹 山菜 蕎麥 菜 瓜
 冬牡丹 山菜 蕎麥 菜 瓜



故 故 合 中 老 堀 堀

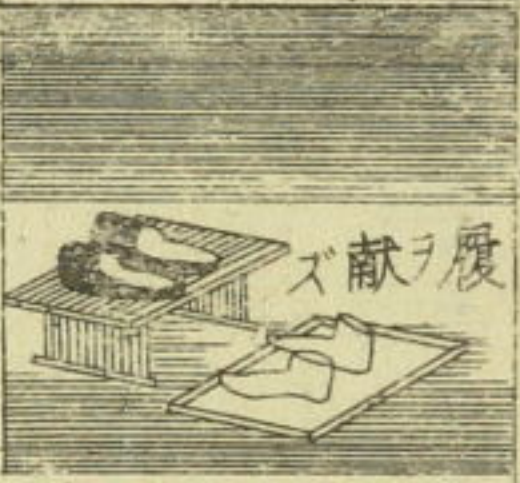
乳をせるはる... 故の耳を付けり... 入口も... 堀も... 堀も... 堀も... 堀も...

里 流 千 文 山 里 窟 由 堀 堀

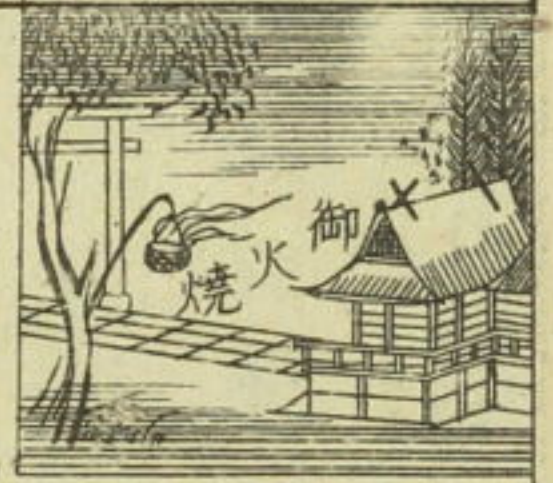
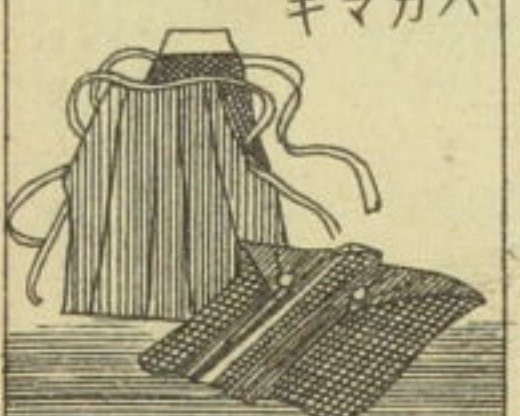
香 香 香 香 香 香

小水の外... 香の香... 香の香... 香の香... 香の香... 香の香...

英 其 其 送 送 送 送



履を献ぐ... 芝居影... 報恩... 里神... 早分... 小前張...



御焼... 光格天皇... 大系聖... 中山... 杉尾... 山科... 三條... 吉田... 宗像...



香 香 香 香 香 香 香 香 香 香 香 香

一夜 麦 汁 糸 川 粘 天 後

一夜 麦 汁 糸 川 粘 天 後
一夜 麦 汁 糸 川 粘 天 後
一夜 麦 汁 糸 川 粘 天 後
一夜 麦 汁 糸 川 粘 天 後
一夜 麦 汁 糸 川 粘 天 後
一夜 麦 汁 糸 川 粘 天 後
一夜 麦 汁 糸 川 粘 天 後
一夜 麦 汁 糸 川 粘 天 後
一夜 麦 汁 糸 川 粘 天 後
一夜 麦 汁 糸 川 粘 天 後

梅枝 風 麦 梅 山 庭 美 吉 西 夢 九 文
枝 風 麦 梅 山 庭 美 吉 西 夢 九 文
枝 風 麦 梅 山 庭 美 吉 西 夢 九 文
枝 風 麦 梅 山 庭 美 吉 西 夢 九 文
枝 風 麦 梅 山 庭 美 吉 西 夢 九 文
枝 風 麦 梅 山 庭 美 吉 西 夢 九 文
枝 風 麦 梅 山 庭 美 吉 西 夢 九 文
枝 風 麦 梅 山 庭 美 吉 西 夢 九 文
枝 風 麦 梅 山 庭 美 吉 西 夢 九 文
枝 風 麦 梅 山 庭 美 吉 西 夢 九 文



梅枝 風 麦 梅 山 庭 美 吉 西 夢 九 文
梅枝 風 麦 梅 山 庭 美 吉 西 夢 九 文
梅枝 風 麦 梅 山 庭 美 吉 西 夢 九 文
梅枝 風 麦 梅 山 庭 美 吉 西 夢 九 文
梅枝 風 麦 梅 山 庭 美 吉 西 夢 九 文
梅枝 風 麦 梅 山 庭 美 吉 西 夢 九 文
梅枝 風 麦 梅 山 庭 美 吉 西 夢 九 文
梅枝 風 麦 梅 山 庭 美 吉 西 夢 九 文
梅枝 風 麦 梅 山 庭 美 吉 西 夢 九 文
梅枝 風 麦 梅 山 庭 美 吉 西 夢 九 文



秋 稻 砂 立 文 難 子 業

秋 稻 砂 立 文 難 子 業
秋 稻 砂 立 文 難 子 業
秋 稻 砂 立 文 難 子 業
秋 稻 砂 立 文 難 子 業
秋 稻 砂 立 文 難 子 業
秋 稻 砂 立 文 難 子 業
秋 稻 砂 立 文 難 子 業
秋 稻 砂 立 文 難 子 業
秋 稻 砂 立 文 難 子 業
秋 稻 砂 立 文 難 子 業

梅 三 多 經 一 其 庭 可 旭 兼
枝 車 余 友 魂 異 南 雅 殊 氣 直
枝 車 余 友 魂 異 南 雅 殊 氣 直
枝 車 余 友 魂 異 南 雅 殊 氣 直
枝 車 余 友 魂 異 南 雅 殊 氣 直
枝 車 余 友 魂 異 南 雅 殊 氣 直
枝 車 余 友 魂 異 南 雅 殊 氣 直
枝 車 余 友 魂 異 南 雅 殊 氣 直
枝 車 余 友 魂 異 南 雅 殊 氣 直
枝 車 余 友 魂 異 南 雅 殊 氣 直
枝 車 余 友 魂 異 南 雅 殊 氣 直



豆腐水 水漬 餅つき 湯豆腐 餅蒸り
豆腐水 水漬 餅つき 湯豆腐 餅蒸り
豆腐水 水漬 餅つき 湯豆腐 餅蒸り
豆腐水 水漬 餅つき 湯豆腐 餅蒸り
豆腐水 水漬 餅つき 湯豆腐 餅蒸り
豆腐水 水漬 餅つき 湯豆腐 餅蒸り
豆腐水 水漬 餅つき 湯豆腐 餅蒸り
豆腐水 水漬 餅つき 湯豆腐 餅蒸り
豆腐水 水漬 餅つき 湯豆腐 餅蒸り
豆腐水 水漬 餅つき 湯豆腐 餅蒸り



葉 出 蛸 相 木 槿

昔紙控しんぐ橋をたせぬのふ
往來の少なき多や白木槿
朽き葉を木槿の葉の如くけり
こぼしと落し一葉の門庭
風の来たる後すくもあ一相葉
首さきて眼をわたりもさる橋控
とんねりや何れ思葉の叶の生
橋の葉の生れや逃撮ひ
橋の及どあや橋控をふたり
後より来ておのれ神ささり
ささりあはれ紙ささり紙ささり
おのれやちをるへんはささり
ささり紙ささり紙ささり紙ささり
葉ささり紙ささり紙ささり

葉 出 蛸 相 木 槿
葉 出 蛸 相 木 槿
葉 出 蛸 相 木 槿
葉 出 蛸 相 木 槿

蛸 相 木 槿

昔紙控しんぐ橋をたせぬのふ
往來の少なき多や白木槿
朽き葉を木槿の葉の如くけり
こぼしと落し一葉の門庭
風の来たる後すくもあ一相葉
首さきて眼をわたりもさる橋控
とんねりや何れ思葉の叶の生
橋の葉の生れや逃撮ひ
橋の及どあや橋控をふたり
後より来ておのれ神ささり
ささりあはれ紙ささり紙ささり
おのれやちをるへんはささり
ささり紙ささり紙ささり紙ささり
葉ささり紙ささり紙ささり

葉 出 蛸 相 木 槿
葉 出 蛸 相 木 槿
葉 出 蛸 相 木 槿
葉 出 蛸 相 木 槿

○花侍てり近一葉あひて風近一海の香ハ登踏し
く寂靜あり川の香ハ登踏あり寂踏しく寂踏ハあさ
深く夕暮く河ハ面ふきものあり葉ハ佛一きもの餅ハ
んよきあさく汁ハあじき情紙子ハ老も人の海気さ
く紙ふん生ハ侘し海一き情葉の香葉ハ香ある也
木の香葉ハ及勿痛も葉ハ難くも也一及不結んで昔
一かか紙を登踏の葉ハ及た也一殊ハ六月のころは
葉ハ香あるもの○非ハとさかりハ禁裏に居る余ハ
里の字付也ハ香とさかりハ海誓ふらさる余ハ香ふ及ハ
ハ○及来るハ香あり秋来るハ香あり陽也ハ消さる

昔紙控しんぐ橋をたせぬのふ
往來の少なき多や白木槿
朽き葉を木槿の葉の如くけり
こぼしと落し一葉の門庭
風の来たる後すくもあ一相葉
首さきて眼をわたりもさる橋控
とんねりや何れ思葉の叶の生
橋の葉の生れや逃撮ひ
橋の及どあや橋控をふたり
後より来ておのれ神ささり
ささりあはれ紙ささり紙ささり
おのれやちをるへんはささり
ささり紙ささり紙ささり紙ささり
葉ささり紙ささり紙ささり

版權免許

明治十五年十月十二日
同 年十一月刻成
同 年十二月改定再刻御届
同 十六年三月刻成

定價金廿五錢

編輯人 神田區千代田町廿八番地

出版人 梶橋區通四丁目十番地

考正人 芝區芝之田通榮町五番地

東京府平民

加藤重兵衛

東京府平民

松田幸助

東京府平民

手塚幸七



一首 俳諧節用集

掌中俳諧季寄大全

手塚貞彦輯
折木全二帖

一首 俳諧あまのふ

掌中俳諧季寄便覽

谷壯太郎輯
折本一帖

七部集

增補四季部類大全

花屋菴著
小本全二冊

一首 芭蕉翁口訣

其鯨 俳翼

手塚貞彦輯
小本全二冊

一首 古今和歌集

增補明治和歌教草

谷壯太郎輯
折本全一帖

一首 和歌草分衣

